



耕作放棄地の活用による有機かんしょの栽培拡大

株式会社アグリ・コーポレーション

ごとうし みいらくまち

長崎県五島市三井楽町

農場の概要

有機JAS認証圃場40haで有機かんしょの育苗から収穫まで実施し、裏作に有機大麦、有機小麦を栽培。このうち約16haにおいて、農地中間管理事業を活用。

有機JAS認証のかんしょを加工した、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋（オーガニックおしゃぶり）や規格外品を原料としたペースト等の一次加工、有機かんしょの輸出も展開。



耕作放棄地解消前



耕作放棄地解消後

取組の概要等

●背景

五島は、少子高齢化や都市部への人口流出により、農業生産者が減少しており、未利用農地・耕作放棄地の拡大が課題。アグリ・コーポレーションが事務所を置く三井楽町においても、600haの未利用農地・耕作放棄地があり、その解消を図ることが喫緊の課題となっていた。

●取組概要

五島列島では、台風や干ばつなどの気象災害に強く、貯蔵性が高く保存食として優れているかんしょが古くから広く栽培され、加工品（かんころ）も生産されていた。

アグリ・コーポレーションは、かんしょの栽培面積の拡大、加工品（おしゃぶり、かんしょペースト）の開発・販売に積極的に取り組み、これまでに10haの耕作放棄地を解消し、栽培面積の拡大を進めてきている。

また、栽培にあたっては、他産地との差別化、付加価値の向上、海外販路の開拓を目的として、有機栽培（無化学肥料・無農薬）への転換を進め、2020年には全圃場、加工場で有機JAS認証を取得し、青果及び加工品の単価アップを実現している。

解消した農地の一部を移住者や有機農業者に貸し出すなど、地域の担い手の育成・確保にも尽力している。

今後の展開

- ◆ 有機農家の組織的な拡大を図り、耕作放棄地を地域資源と捉え、農地再生から規模拡大を行う。
- ◆ 有機経営には、認証にかかる負担や時間、収量減・コスト増の課題があり、単独で取り組むにはハードルが高いため自社による初期サポートにより諸課題を解決する。また、有機農業経営に意欲を有する農家を地域が一体となって組織的にサポートする仕組みを構築し、有機かんしょの産地化を図る。
- ◆ 自社が有する有機工場で規格外品の一次加工に取り組みることにより、収益性の高い持続可能な有機農業モデルを構築する。



加工場



「おしゃぶり」



「かんしょペースト」